

【覚満淵】

赤城山山頂にある周囲0.8kmほどある湿原「覚満淵」。大沼の一部が湿原となり、今の覚満淵ができたといわれています。湿原の周りは木道が整備されており、その時季に咲いている植物を観察しながら1周30分のハイキングを楽しむことができます。赤城山山頂付近は標高1,350m、高山植物が季節の移り変わりとともに顔を出します。5月には新緑。6月のレンゲツツジは本当に見事で多くの観光客でにぎわっています。



10月中旬には紅葉が始まり、木々がオレンジや黄色に染まり、湿原には竜胆も咲きます。霧がかかった覚満淵は晴天の時と違って幻想的なので、雨で登山ができない場合は覚満淵散策だけでもしてみてもいかがですか？

(文: 黛)

■所要時間: 交流の家から約30分 ■住所: 群馬県前橋市富士見町赤城山

リレーcolumn  
またっふの目

『大切な財産』

文: 黛 若葉  
【まゆずみ わかば】

赤城に来て4年。今年が最後の年です。この4年間でたくさんの笑顔、信頼できる仲間、尊敬する上司、地域の底力、地元を愛する人たちが、本気になる大人…。本当に素敵な出会いがありました。これは大切な財産です。



「人」が一番大切にする黛さん。どんな時でも元気いっぱい笑顔で迎え入れてくれます。(手にはお箸さん)

赤城は本当に魅力溢れる場所です。自然や食だけではなくやはり「人」。人とつながる、人と人をつなげる、国立施設としての使命は地域のハブとなることだと感じました。何枚も名刺を配ればいいのか、重要なのは名刺の数じゃなく、つながって一緒に何かをつくれた数。名刺は顔です。まずは自分が足を運ぶこと。そう気づかせてくれたみなさんに感謝です。つながった出会い、得たものを大切にこれからもこの地でたくさんの笑顔に出会うために走り続けます。(文: 黛)

- 「秋の夜長 耳をすませば 虫の声」(松崎)
- 「いざゆかん 尾瀬の高嶺と 草紅葉」(原田)
- 「赤城山 ポージョレそそぎ 山粧う」(丸山)
- 「団欒の 笑顔に寄り添う 千の風」(鈴木)
- 「赤とんぼ 赤城の空は 高く澄み」(杉浦)
- 「秋晴れに 自転車道 ペダルこぐ」(飯沼)
- 「牡蠣や鯖 鮭も美味しい 食欲の季節」(森田)
- 「虫の音が 寝苦しき夜を 連れ去りぬ」(笹木)
- 「今年もまた 食べそこねた 月見バーガー」(手島)
- 「驚いた トンボとハチを 見間違う」(田野崎)
- 「秋あかね 赤城の空に すいこまれ」(大濱)
- 「朝読書 昼はスポーツ 夜味覚」(高橋浩)
- 「痩せたいと 運動しても 肥ゆる秋」(田中)
- 「秋近し 実をみのらせる 木々たち」(佐藤)
- 「秋の山 疲れを癒す 夜景かな」(新井)
- 「秋晴れに 煙突そうじ 薪づくり」(大工原)
- 「気がつけば 肌に感じる 秋の風」(田村)
- 「新サンマ 刺身と焼きで 食す秋」(小倉)
- 「浅い秋 わがまま女が ただ一人」(高橋悠)
- 「マグロより トロよりまい 秋刀魚の刺身」(阿左見)
- 「七輪で 脂が乗った 秋刀魚かな」(根本)
- 「晩秋蚕 今年最後の 子育てです」(黛)
- 「セミの声 うなる暑さが 懐かしい」(渡邊)

風と太陽のくにからの通信誌

カラゴロリ



MIDORI

「アケビ」

秋を感じさせる果実の一つアケビ。茂みに紛れている野生の実を探って食べたという、懐かしい思い出がある人もいないでしょうか。

アケビは成熟すると皮が割れて半透明のゼリー状の果実があらわれます。実を食べると上品な甘さが口いっぱいに広がります。滋養強壮に効果があり、昔の旅人は、それで疲れを取っていたそうです。紫色の皮は、肉詰めや天ぷらにして食べることができます。実とは違う、ほろ苦い大人の味を楽しむことができます。

野生動物も大好きなアケビ。食べられてしまう前につけられたらラッキーですね。

風のおと

『慰霊の日』

6月23日は沖縄慰霊の日です。たまたま数年前のこの日に沖縄に居て以来、毎年、私の慰霊の夏が始まります。

夏休みになると、私の職場は毎日大賑わいですが、8月6日と9日の原爆の日、15日の終戦の日、そして群馬県民として忘れられないのは12日の日航ジャンボ機が御巣鷹山の尾根に墜落して520人という航空事故史上最も多い犠牲者を出した慰霊の日があります。今年から制定された「山の日」の祝日は当初この日になる予定でしたが、大沢群馬県知事の反対によって1日前になったそうです。

20年前に阪神・淡路大震災があり、5年半前には東日本大震災が、そして今年には熊本で大きな地震が起きました。台風などの水害で亡くなる高齢者も後を絶ちません。

1年中、いろいろな慰霊の日がありますが、交流の家で元気に活動している子どもたちを見るにつけ、戦争や自然災害で亡くなった方々に「皆様の方も子どもたちは元気に走り回っています」と報告し、合掌せずにはおられません。

所長 杉浦俊之

次号は、1月1日発行予定！

体験の風をおこそう

「交流の家HP」「Facebook」で当所の情報を更新中

国立赤城青少年交流の家 <http://akagi.niye.go.jp/>

TEL:027-289-7224 (9:00~18:00) FAX:027-289-7226

あかぎ カラゴロリ

検索

〒371-0101 群馬県前橋市富士見町赤城山27 E-mail:akagi@niye.go.jp



# H28 国立赤城青少年交流の家

## 赤城やまなみチャレンジキャンプ

## ふじみフレンドシップキャンプ

8月13日(土)～20日(土)7泊8日の日程で「赤城やまなみチャレンジキャンプ」を開催しました。この事業は、仲間と一緒にテント泊をしながら赤城の山を構成する主要な7山を踏破することを目標としています。参加対象は小学4年生から中学3年生までで、群馬県を中心に関東近県から16名の参加がありました。

「挑戦・協力・感謝」というテーマを掲げ、毎日の山歩きやテントでの生活など、多くの「挑戦」をしました。そして、互いに支え合う仲間の存在に気づき、そこから「協力」を学びました。

また、大変なチャレンジの合間に自分達で食事を作る日もあり、今回のチャレンジが周りの人たちに支えられながら行われていることに気づき「感謝」の気持ちが芽生えていきました。子どもたちは、たくさんチャレンジを一つ一つクリアしていくにつれ、たくましく成長していったように感じます。そして、それを裏付けるように子どもたちの表情は日に日に自信に満ちていきました。

キャンプを通して感じた「挑戦・協力・感謝」の気持ちを普段の生活でも意識し、活かすことで、更に成長することを願っています。(文:田野崎)



8月6日(土)～7日(日)1泊2日で、前橋市赤城少年自然の家にて「ふじみフレンドシップキャンプ」が行われました。このキャンプは、前橋市富士見地区に住む小学生4年生～6年生を対象に、自然体験を通じて楽しんでもらうこと、そして、同じ中学校(富士見中)へ進学する子どもたちの仲間づくりをすることをねらいとして行いました。富士見の4つの小学校から45人が参加しました。

1日目は、富士見公民館のリニューアルオープニングセレモニーに参加後、大沼湖畔にある赤城少年自然の家へ移動。到着後は、ウェルカムランチ、所長の今泉さんご指導のもとのカッター体験。夜には、赤城山夏祭り会場で、願い事を書いた灯笼を流したり、目の前に迫ってくるほど迫力の花火を見たりして、最後にはキャンプファイヤーをしました。

2日目は、「広瀬川湖畔緑の少年団」の皆さんとともに、班ごとに協力しながら、大沼湖畔に隠されたポイントを探すフォトラリー。そして野外炊事では、おいしい焼きそばを作りました。

2日間とも、参加した子どもたちのたくましい笑顔が見られた素敵なキャンプとなりました。

秋のキャンプでもまた会えることを楽しみにしています。(文:小倉)

## プログラム 紹介!

### 【風づくり】

今年度から交流の家の活動プログラムに「風づくり」が新しく加わりました。風の本体には発色の良い和紙の風合いを残した障子紙を、風の命になる骨組みには竹を使用します。風を上手にあげるためのポイントとして左右のバランスを均一にする必要があります。そのため、使用する竹は講師の三橋先生が一つ一つ丁寧に切り出してくれます。

風づくりはデザインを考えることから始まります。それから和紙に自分の好きな絵を書いたり色を塗ったりします。そして、三橋先生の指導のもと、本体に骨組みと風系を取り付けて、自分だけの風が完成します。出来上がった風は、何も無い広い場所であげてみましょう。青く晴れた空に自分の風が高くあがった時には、きっと晴れ晴れとした気持ちになると思います。どのようにしたら高くあがるのでしょうか。とてもやりがいがありますね。風が強い赤城の地で行う「風づくり」おすすすめです。

(文:高橋悠)



国立赤城青少年交流の家で活躍する、非常勤講師やボランティアの方をご紹介します

## この人に会いたい

●国立赤城青少年交流の家 ボランティア

### 松根 夏菜さん (ボランティアネーム:かな)

今回ご紹介するのは交流の家のボランティアとして活躍している松根夏菜さんです。ボランティアネームは「かな」です。

かなが交流の家でボランティアを始めたきっかけは、高校生の頃にボランティア養成セミナーに参加したことだそうです。そこで出会った先輩ボランティアの人に声をかけてもらったことで、この人たちにもう一度会いたいと思ったそうです。

ボランティアをしている中で、参加者やスタッフに「またここに来たい、あなたに会いたい」と言ってもらえる瞬間が嬉しくて、やりがいを感じるそうです。「あかぎサンサンかがやきキャンプ」でも子どもたちと明るく楽しく元気に、そして優しく接している姿がとても印象的でした。将来の夢である特別支援学校の教諭を目指し、努力を惜しまず様々な世界を見ていきたいと語るかなに会いに、ぜひ来てみてください。(文:田村)



## 利用や活動について

### あかぎをつかう!

- 【利用に関して】
- ・キャンプ場は、11月から翌年4月末まで冬季閉鎖期間となります。
  - ・11月～翌年3月の前半にかけては、ご予約が取りやすい時期となっています。ご家族でのご利用もおすすすめです。
- 【活動に関して】
- ・日の入りの時間が早まっていますので、午後の活動を外で行う場合、早めに活動を終了したり、懐中電灯を持つなどの対応をお願いします。
  - ・野外炊事場の方面には、イノシシなどの野生動物が目撃されますので、出くわした場合は、静かにその場から離れましょう。

(文:大濱)

## あかぎの植物紹介

【コブシ】早春に他の木々に先駆け白い花を咲かせて目を楽ませせてくれるコブシ、一方で秋にはごつごつした果実をつけ、これが拳を思わせるということが名前の由来とされています。

開花を合図に農作業を始める慣習もあるような人々の生活に馴染みのあるコブシは、花が香水の原料になります。また、樹皮を煎じて茶の代わりや風邪薬として使用したり、集合果の果実が割れると現れる赤い種子を焼酎・砂糖に漬けて果実酒を作ったりすることができます。庭木や街路樹として見かけたら、樹皮や果実にも着目してみてください。(文:森田)



## 赤城山ツーリズム 第3回

### 「不動大滝」 渡邊ファーム 渡邊さん

自分が生まれ育った前橋市粕川町、北を望むと雄大な赤城山が広がります。赤城といえば、赤城おろしという冬の空の風が有名です。この強く冷たい空の風のおかげで、粕川の冬野菜は甘みを増し、美味しくなるんです。そして今、私はこの美味しい野菜を全国へ届けたいと思い、日々農業に勤しんでいます。

この粕川町にはたくさんの滝があります。その中でも不動大滝は落差50mの赤城山最大の滝です。登り口から1時間程度で滝壺へ到着でき、心地よい疲労とマイナスイオンが得られます。圧倒的な迫力を目の前にすると、気持ちも入れ替わり明日からまた頑張ろうと思えるのでおすすすめです。



赤城の空の風で育った野菜、とてもおいしそうです。

## これからの動き

下記の事業の詳細はこちらまでお問い合わせください⇒TEL:027-289-7224(国立赤城青少年交流の家)

### ■ふじみフレンドシップキャンプ

11/25(金)～27(日) 2泊3日

前橋市富士見地区に住む、小学生4～6年生を対象としたキャンプです。地元、富士見に住む子どもたちが地域の自然や文化の素晴らしさを再発見する活動を通して、富士見の各小学校同士の交流を深めてくれることをねらいとしています。



### ■自然体験活動指導者養成研修会

・NEALインストラクター  
12/5(月)～8(木)3泊4日  
・NEALリーダー  
1/7(土)～9(月)2泊3日

全国体験活動連絡協議会(NEAL)が認定する指導者カリキュラムで、知識や技術を学ぶことができます。

※インストラクターはリーダー資格保持者が対象です。

### ■リスクマネジメントセミナー

1/14(土)～15(日)1泊2日

体験活動を行う際に必要なリスクマネジメントについて学びます。CONE(自然体験活動推進協議会)認定のリスクマネジメントディレクター・リスクマネージャーの資格が取得できます。

※リスクマネージャーコースはリスクマネジメントディレクター資格保持者が対象です。